

Partial Translation of
FIRST NOTICE OF REJECTION REASONS in Corresponding Chinese Patent Application

TEXT OF FIRST NOTICE OF REJECTION REASONS

As described in the specification, the present application relates to a radial tire in which belt cords of a belt layer are arranged to be spirally wound almost in parallel in a tire circumferential direction. As a result of examination, the Examiner's following opinions are submitted.

1. (Regarding Claim 1: omitted)
2. (Regarding Claim 2: omitted)
3. (Regarding Claim 3: omitted)
4. (Regarding Claims 4-5: omitted)
5. The technical features which are added in the limiting part of the dependent Claim 6 have already been published in Reference 1 (refer to Figures 1-3 and specification paragraphs [0031]-[0063] in Reference 1). In the reference, a body ply (4) is arranged as one layer, the oblique angle of the body ply cords relative to the circumferential direction is about 90 degrees, an oblique belt layer arranged on the outer circumference of the body ply has its belt cords arranged to be inclined 30 degrees relative to the circumferential direction, and at least one layer of spirally wound belt layer (7) is arranged on the outer circumference of the oblique belt layer to be spirally wound almost in parallel in the tire circumferential direction. Further, the functions that these features perform in the present application are the same as those performed in Reference 1. Accordingly, where Claim 1 which is quoted in the dependent Claim 6 does not have novelty over Reference 1, the dependent Claim 6 does not have the novelty provided in the Chinese Patent Law §22, second paragraph, and where Claims 2-5 which are quoted in Claim 6 do not have inventive steps, the dependent Claim 6 also does not have the inventive step provided in the Chinese Patent Law §22, third paragraph.
6. (Regarding Claim 12: omitted)

[In addition, there are many prior art which have placed the same or similar technical concepts as the present application to the public; for example, the content (refer to Figures 1, 2, 6, 7 and specification paragraphs [0011]-[0025]) described in Reference 3 (JP5-604A) negates the novelty of Claim 1 and the inventive steps of Claims 2, 3 of the present application.]

II. Others

1. (omitted)
2. (omitted)



*previously cited
on October 16, 2006
Office Action*

Note: Reference 1: JP2001-63310A published on 2001-03-13

*previously cited
on October 16, 2006
Office Action*



中华人民共和国国家知识产权局

100101 北京市朝阳区慧忠路5号远大中心B座18层 隆天国际知识产权代理有限公司 高龙鑫,王玉双	发文日 
申请号: 2003801024342 	
申请人: 不二精工株式会社	
发明名称: 具有圆周方向螺旋卷绕带束层的子午线轮胎	

第一次审查意见通知书

(进入国家阶段的 PCT 申请)

- ☒ 应申请人提出的实审请求, 根据专利法第 35 条第 1 款的规定, 国家知识产权局对上述发明专利申请进行实质审查。
☐ 根据专利法第 35 条第 2 款的规定, 国家知识产权局专利局决定自行对上述发明专利申请进行审查。
- ☒ 申请人要求以其在:

JP	专利局的申请日	2002 年 11 月 08 日	为优先权日。
	专利局的申请日	年 月 日	为优先权日。
	专利局的申请日	年 月 日	为优先权日。
- ☐ 申请人于 年 月 日和 年 月 日以及 年 月 日提交了修改文件。
 经审查, 申请人于 年 月 日提交的 不符合专利法实施细则第 51 条第 1 款的规定。
- ☐ 审查是针对原始提交的国际申请的中文译文进行的。
☒ 审查是针对下述申请文件进行的:

<input checked="" type="checkbox"/> 说明书	第 1-8, 11-15 页, 按照进入中国国家阶段时提交的国际申请文件的中文文本;
	第 页, 按照专利性国际初步报告附件的中文文本;
	第 页, 按照依据专利合作条约第 28 条或 41 条规定所提交的修改文件;
	第 页, 按照依据专利法实施细则第 51 条第 1 款规定所提交的修改文件;
	第 9, 10, 16 页, 按照 2005 年 7 月 8 日所提交的修改文件。
- ☐ 权利要求

<input checked="" type="checkbox"/> 权利要求	第 1-12 项, 按照进入中国国家阶段时提交的国际申请文件的中文文本;
	第 项, 按照依据专利合作条约第 19 条规定所提交的修改文件的中文文本;
	第 项, 按照专利性国际初步报告附件的中文文本;
	第 项, 按照依据专利合作条约第 28 条或 41 条规定所提交的修改文件;
	第 项, 按照依据专利法实施细则第 51 条第 1 款规定所提交的修改文件;
	第 项, 按照 年 月 日所提交的修改文件。
- ☐ 附图

<input checked="" type="checkbox"/> 附图	第 1-3, 5-18 页, 按照进入中国国家阶段时提交的国际申请文件的中文文本;
	第 页, 按照专利性国际初步报告附件的中文文本;
	第 页, 按照依据专利合作条约第 28 条或 41 条规定所提交的修改文件;
	第 页, 按照依据专利法实施细则第 51 条第 1 款规定所提交的修改文件;
	第 4 页, 按照 2005 年 7 月 8 日所提交的修改文件。



第一次审查意见通知书正文

申请号：200380102434.2

如说明书所述，本发明涉及带束层的带束层帘线基本上与轮胎的圆周方向平行地螺旋卷绕排列的子午线轮胎。经审查，现提出如下审查意见。

1.1 权利要求1所要求保护的技术方案不具备专利法第二十二条第二款规定的新颖性。权利要求1请求保护一种具有圆周方向螺旋卷绕带束层的子午线轮胎，对比文件1（JP2001-63310A）也公开了一种具有圆周方向螺旋卷绕带束层（7）的子午线轮胎

（1），并具体公开了以下技术特征（参见对比文件1的附图1-3以及说明书第[0031]-[0063]段）：在两端具有折回部的主体帘布层（4），该折回部从轮胎胎面部经由轮胎侧壁部在胎圈部的胎圈芯处折回；沿轮胎圆周方向卷绕安装到该主体帘布层的外周上的带束层（5-7）；沿圆周方向配置在该带束层的外周上的轮胎胎面；在前述主体帘布层的轮胎侧壁部和折回部之间、从前述胎圈芯起向轮胎半径方向外侧延伸的胎圈填胶（其中折回部、胎圈填胶等特征为子午线轮胎所必然应具备的结构，属于隐含公开的内容），前述带束层（7），是被橡胶被覆的一条或多条带束层帘线沿轮胎圆周方向基本上平行地螺旋卷绕排列的至少一层螺旋卷绕带束层，该螺旋卷绕带束层的带束层帘线，在规定延伸率或其以下时，相对于延伸率增加的拉伸负荷增加比例小，当超过规定延伸率时，前述拉伸负荷增加比例大（具体参见对比文件1的附图2中C所示的带束层帘线拉伸负荷与延伸率特性曲线图）。由此可见，对比文件1已经公开了权利要求1的全部技术特征，且对比文件1所公开的技术方案与该权利要求所要求保护的技术方案属于同一技术领域，并能产生相同的技术效果，因此权利要求1所要求保护的技术方案不具备新颖性。

1.2 权利要求2是权利要求1的从属权利要求，其限定部分的附加技术特征虽然没有在对比文件1中明确公开，然而在对比文件1公开内容（具体出处同上）的基础上，所属领域的普通技术人员通过运用常规试验手段以及有限次试验而适当调整带束层帘线规定延伸率的相应拉伸负荷以满足轮胎的具体应用要求，是显而易见可以实现的，无需付出创造性的劳动。因此在其引用的权利要求1不具备新颖性的情况下，该从属权利要求2不具备专利法第二十二条第三款规定的创造性。

1.3 从属权利要求3限定部分附加技术特征也已对比文件2（JP5-96909A）中相应地公开了（参见对比文件2的附图1、2以及说明书[0014]-[0025]段），且其在对比文件2中所起的作用与其在本发明中所起的作用相同，都是运用尼龙与聚酰胺纤维捻制的

复合式帘线来实现帘线轻量化的目的，即该对比文件给出了将上述附加技术特征应用到对比文件1的技术方案以进一步解决其技术问题的启示，由此可知在对比文件1及所属领域公知技术的基础上结合对比文件2得出该权利要求3进一步限定的技术方案，对本领域的技术人员来说是显而易见的，因而在其引用的权利要求不具备新颖性或创造性的情况下，该从属权利要求3不具备专利法第二十二条第三款规定的创造性。

1.4从属权利要求4-5附加技术特征均为为调整轮胎特性的需要而选用具有相应特性材料/结构的带束层帘线，而这些帘线的特性在所属领域内早已是公知的，故这种选择对于所属领域内的普通技术人员而言也成为常规选择手段，因而在其引用的权利要求不具备新颖性或创造性的情况下，从属权利要求4-5也不具备专利法第二十二条第三款规定的创造性。

1.5从属权利要求6限定部分附加技术特征已在对比文件1中相应地公开了（参见对比文件1的附图1-3以及说明书第[0031]-[0063]段），其中，配置了一层主体帘布层（4），该主体帘布层帘线相对于圆周方向的倾斜角度为大致90度；配置在主体帘布层的外周上的排列倾斜带束层，其帘线相对于圆周方向呈30度排列；在倾斜带束层外周沿轮胎圆周方向上基本平行地螺旋卷绕排列至少一层螺旋卷绕带束层（7）。且这些特征在该对比文件1中所起的作用与其在本发明中所起的作用相同，达到的效果也相同，故在其引用的权利要求1相对于对比文件1不具备新颖性的情况下，从属权利要求6不具备专利法第二十二条第二款规定的新颖性；在其引用的权利要求2-5不具备创造性的情况下，从属权利要求6也不具备专利法第二十二条第三款规定的创造性。根据从重原则，故该权利要求6不具备新颖性。

1.6从属权利要求12限定部分的附加技术特征已在对比文件1中相应地公开（具体参见对比文件1的附图1），且其在该对比文件1中所起的作用与其在本发明中所起的作用相同，达到的效果也相同，因而在其引用的权利要求6相对于对比文件1不具备新颖性的情况下，该从属权利要求12也不具备专利法第二十二条第二款规定的新颖性。

【同时，现有技术中还有很多对比文件公开了与本申请相同或相近的技术方案，例如，对比文件3JP5-604A公开的内容（参见该对比文件附图1、2、6、7以及说明书第[0011]-[0025]段）也可以破坏本申请权利要求1的新颖性，权利要求2、3的创造性。】

二、其它问题

2.1 权利要求2、7中出现了不必要的括号以及“优选”这样容易导致一项权利要求中限定出不同的保护范围的用语，权利要求7中因而不符合专利法实施细则第二十条第一款的规定（参见审查指南第二部分第二章第3.2.2节）。

2.2 权利要求6、7、12本身是多项从属权利要求，它们又引用了在前的多项从属权利要求，因此不符合专利法实施细则第二十三条第二款的规定。申请人应当对该权利要求的引用关系进行修改。

2.3 说明书中出现了明显笔误，例如第1页第12行的“所述紫外线轮胎”显然应为“所述子午线轮胎”，因而不符合专利法实施细则第十八条第三款关于说明书应当用词规范、语句清楚的规定。

基于上述理由，本发明专利申请按照目前的文本不能被授权。申请人应在本通知书指定的答复期限内作出答复，对本通知书中提出的所有问题逐一详细地作出说明，必要时应修改专利申请文件，并同时应在意见陈述书中论述新修改的独立权利要求相对于本通知书中引用的对比文件以及申请日前的现有技术（例如国际检索报告中列出的对比文件）具有新颖性和创造性的有说服力的充分理由，否则本申请将难以获得批准。如果申请人计划对申请文件进行修改，则还应充分注意以下问题：1. 申请人对申请文件进行的任何修改均不得超出原申请文件的记载范围，以符合专利法第三十三条的规定；2. 说明书相应内容部分（如，发明内容部分）应根据修改后的权利要求书作适应性修改，以使申请文件符合专利法实施细则第十八条第三款的规定；3. 申请人在提交修改文件时应当提交：第一，修改涉及的那一部分原文的复印件，并在该复印件上标注出所作的增加、删除或替换，并指明所作的修改是以原说明书和权利要求书的哪部分内容为依据的；第二，重新打印的替换页，用于替换相应的原文。申请人应当确保上述两部分在内容上的一致性，并在意见陈述书中详细说明所作修改的具体理由和依据。

审查员：

代码：



中華人民共和國國家知識產權局

郵便番号: 100101

北京市朝陽區慧忠路5号遠大中心B座18層

隆天國際知識產權代理有限公司

高龍鑫、王玉双

出願番号: 200380102434.2

発行日:

2007.3.30

出願人: 不二精工株式会社

発明の名称: 周方向螺旋巻きベルト層を有するラジアルタイヤ

第一回拒絶理由通知書

(PCT 出願の国内移行段階)

1. ☒ 出願人の出願審査請求により、且つ、特許法第 35 条第 1 項の規定に基づき、国家知識産権局は、上記特許出願に対し実体審査を行う。
☐ 特許法第 35 条第 2 項の規定に基づき、国家知識産権局は、上記特許出願に対し、自ら実体審査を行うことを決定する。

2. ☒ 出願人は下記のことを主張する:

JP 特許庁の出願日である 2002 年 11 月 08 日を優先日とする、
特許庁の出願日である 年 月 日を優先日とする、
特許庁の出願日である 年 月 日を優先日とする。

3. 略。

4. ☐ 実体審査は、最初に提出した国際出願の中国語訳文に基づいて行う。

☒ 実体審査は、下記の出願書類に対して行う。

☒ 明細書 第 1-8、11-15 頁、最初に提出した国際出願書類に基づく中国語訳文;

第 頁、国際予備審査報告の附属書類に基づく中国語訳文;

第 頁、特許協力条約第 28 条、又は第 41 条の規定に基づく補正書類;

第 頁、特許法実施細則第 51 条の規定に基づく補正書類;

第 9、10、16 頁、2005 年 7 月 8 日提出した補正書類;

☐

☒ 特許請求の範囲 第 1-12 項、最初に提出した国際出願書類に基づく中国語訳文;

第 項、特許協力条約第 19 条の規定に基づく補正書類の中国語訳文;

第 項、国際予備審査報告の附属書類に基づく中国語訳文;

第 項、特許協力条約第 28 条、又は第 41 条の規定に基づく補正書類;

第 項、特許法実施細則第 51 条の規定に基づく補正書類;

☐

☒ 図面 第 1-3、5-18 頁、最初に提出した国際出願書類に基づく中国語訳文;

第 頁、国際予備審査報告の附属書類に基づく中国語訳文;

第 頁、特許協力条約第 28 条、又は第 41 条の規定に基づく補正書類;

第 頁、特許法実施細則第 51 条の規定に基づく補正書類。

第 4 頁、2005 年 7 月 8 日提出した補正書類;

☒ 選択図、特許法実施細則第 44 条の規定に基づく 2005-07-08 提出した補正書類。

☐ 本通知書は下記の引用文献を引用する (番号は、今後の審査において引き続き採用する):

番号 文献番号又は名称 公開日 (又は抵触出願の出願日)

1 JP2001-63310A 2001-03-13

2 JP5-96909A 1993-04-20

5. 審査の結論的意見:

☒ 明細書について:

- ☐ 出願の内容が、特許法第5条に規定する、特許権を付与しない範囲に属する。
- ☐ 明細書が、特許法第26条第3項に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 明細書が、特許法第33条に規定する要件を満たしていない。
- ☒ 明細書の記載が、特許法実施細則第18条に規定する要件を満たしていない。
- ☐

☒ 特許請求の範囲について:

- ☒ 請求項 1, 6, 12 が、特許法第22条第2項に規定する新規性を有していない。
- ☒ 請求項 2-5 が、特許法第22条第3項に規定する進歩性を有していない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法第22条第4項に規定する実用性を有していない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法第25条に規定する、特許権を付与しない範囲に属する。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法第26条第4項に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法第31条第1項に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法第33条に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法実施細則第13条第1項に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法実施細則第2条第1項に規定する発明の定義を満たしていない。
- ☒ 請求項 2, 7 が、特許法実施細則第20条に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法実施細則第21条に規定する要件を満たしていない。
- ☐ 請求項 _____ が、特許法実施細則第22条に規定する要件を満たしていない。
- ☒ 請求項 6, 7, 12 が、特許法実施細則第23条に規定する要件を満たしていない。
- ☐

上述した結論的意見に対する具体的な分析は、本通知書正文を参照すること。

6. 上述した結論的意見に基づき、審査官は下記の通りに認める:

- ☐ 出願人は、通知書正文に記載された審査官の要求に従って、出願書類に対し、補正を行うべきである。
- ☒ 出願人は、意見書にて当該出願が特許できる理由を陳述しなければならず、且つ、通知書正文にて指摘された、規定に合致しない部分に対して補正すべきである、そうしない場合には、特許権を付与することができない。
- ☐ 特許出願に、特許できる実質的内容が記載されておらず、出願人が理由を陳述しない場合、又は、陳述した理由が不十分である場合、当該出願は拒絶される。
- ☐

7. 出願人は、以下のことに注意すべきである:

- (1) 特許法第37条の規定により、出願人は、本通知書を受け取った日から、4ヶ月内に意見書提出すべきである。正当な理由なく当該期限を過ぎても回答しない場合は、当該出願は取り下げられたものと見なされる。
- (2) 出願人の補正は、特許法第33条の規定を満たさなければならず、補正書類は一式二部を提出すべきであり、且つその書式は、審査指南の関連規定を満たすべきである。
- (3) 出願人の意見書及び/又は補正文書は、国家知識産権局専利局受理処へ郵送、又は直接持参しなければならず、受理処へ郵送、又は直接持参しなかった文書は法的効力を有さない。
- (4) 出願人及び/又は代理人は、予約無しに国家知識産権局専利局で審査官と面談してはいいない。

8. 本通知書の正文部分は、計3頁であり、且つ添付書類は下記の通りである:

- ☒ 参考文献の写し 計 3 部 24 頁。
- ☐

審査官: 高 麗敏 (9664)

審査部門 機械発明審査部

2007年3月13日

第1回拒絶理由通知書正文

明細書に記載のように、本願はベルト層のベルトコードがタイヤ周方向にほぼ平行に螺旋巻きされて配列されたラジアルタイヤに関するものである。審査を経て、下記の審査意見を提出した。

1 クレーム1が保護しようとする技術案は、中国特許法第22条第2項に規定されている新規性を備えていない。クレーム1は周方向螺旋巻きベルト層を有するラジアルタイヤが保護しようとするが、引例1(JP2001-63310A)にも周方向螺旋巻きベルト層(7)を有するラジアルタイヤ(1)が公開されている。そのうち、具体的には下記の技術的特徴が公開されている(引例1の図面1-3及び明細書【0031】-【0063】段落をご参照)。即ち、トレッド部からサイドウォール部を経てビード部のビードコアで折り返す返し部を両端に有したボディブライ(4)と、このボディブライの外周にタイヤ周方向に巻着されたベルト層(5-7)と、このベルト層の外周に周方向に配設されたトレッドと、前記ボディブライのサイドウォール部と返す返し部との間で前記ビードコアからタイヤ半径方向外側に延在するビードファイラー(そのうち、返す返し部、ビードファイラーなどの特徴はラジアルタイヤが当然に備える構成であり、自明な公開内容に属する)とを備え、前記ベルト層(7)は、ゴムに被覆された1本又は複数本のベルトコードがタイヤ周方向にほぼ平行に螺旋巻きに配列された少なくとも1層の螺旋巻きベルト層であり、該螺旋巻きベルト層のベルトコードは、所定伸度以下の場合、伸度の増加に対する引張荷重の増加割合が小さく、所定伸度を超えると前記引張荷重の増加割合が大きいこと(具体的には引例1の図面2の曲線Cに示すベルトコード引張荷重と延伸率特性グラフをご参照)が公開されている。これから分かるように、引例1に既にクレーム1の全ての技術的特徴が公開されている。それに引例1により公開されている技術案は、該クレームが保護しようとする技術案と同じ技術分野に属し、同じ技術的效果が生じられる。従って、クレーム1が保護しようとする技術案は新規性を備えていない。

2 クレーム2はクレーム1の従属クレームであり、その限定部分の付加された技術的特徴は引例1において明確に公開されていないが、引例1により公開されている内容(出所は前記と同様)を基に、通常の試験手段及び有限回の試験によって、ベルトコードの所定伸度に応じる引張荷重を適当に調整してタイヤの具体的な応用要求を満たすことが実現できることが、当業者にとって自明なことであり、創造的な労働を払う必要がない。従って、引用するクレーム1は新規性を備えていない場合、該従属クレーム2は中国特許法第22条第3項に規定されている進歩性を備えていない。

3 従属クレーム3の限定部分の付加された技術的特徴も既に引例2(JP5-96909A)において公開されている(引例2の図面1、2及び明細書【0014】-【0025】段落をご参照)。且つ、それは、引例2において果たす作用が、本願において果たす作用と同様であり、いずれもナイロンとアラミド繊維で織ったハイブリッドコードによりコード軽量化を実現することを目的とし、即ち、該引例から前記の付加された技術的特徴を引例1の技術案に利用して、更にその技術課題を解決する示唆が与えられた。これにより分かるように、引例1及び該術分野の公知技術を基に、引例2を結合して、該クレーム3に限定された技術案を得ることは、当業者にとって自明なことである。従って、引用するクレームは新規性又は進歩性が備えていない場合、該従属クレーム3は中国特許法第22条第3項に規定されている進歩性を備えていない。

4 従属クレーム4-5の付加された技術的特徴は、いずれもタイヤ特性を調整するために、対応する特性がある材料/構成を有するベルトコードを採用することであるが、これらのベルトコードの特性は所属分野において既に公知なものであるので、このような選択は当業者にとっても通常の選択手段である。従って、引用するクレームは新規性又は進歩性を備えていない場合、該従属クレーム4-5は中国特許法第22条第3項に規定されている進歩性を備えていない。

5 従属クレーム6の限定部分の付加された技術的特徴も既に引例1において公開されている(引例1の図面1-3及び明細書【0031】-【0063】段落をご参照)。そのうち、ボディブライ(4)は1層配置され、該ボディブライコードの周方向に対する傾き角度が略90度であり、ボディブライの外周に配置された傾斜ベルト層は、そのベルトコードが周方向に対して30度傾けて配列され、該傾斜ベルト層の外周に少なくとも1層の螺旋巻きベルト層(7)がタイヤ周方向にほぼ平行に螺旋巻きに配列されている。且つ、これらの特徴は引例1において果たす作用が、本願において果たす作用と同様である。従って、それが引用するクレーム1は、引例1に対して新規性を備えていない場合、従属クレーム6は中国特許法第22条第2項に規定されている新規性を備えておらず、それが引用するクレーム2-5は進歩性を備えていない場合、従属クレーム6も中国特許法第22条第3項に規定されている進歩性を備えていない。

6 従属クレーム12の限定部分の付加された技術的特徴も既に引例1において公開されている(引例1の図面1をご参照)、且つ、それは引例1において果たす作用が本願において果たす作用と同様である。従って、それが引用するクレーム6は、引例1に対して新規性を備えていない場合、該従属クレーム12は中国特許法第22条第2項に規定されている新規性を備えていない。

「その同時に、従来の技術において本願と相同又は類似の技術案が公開されている引例はたくさんあり、例えば、引例3 (JP5-604A) に公開されている内容 (該引例図面1, 2, 6, 7 及び明細書【0011】—【0025】段落をご参照) により、本願クレーム1の新規性、クレーム2, 3の進歩性もなくなる。」

二、その他

1 クレーム2, 7において必要でない括弧及び「好ましく」のように一つのクレームにおいて異なる保護範囲を限定する用語が出るので、クレーム2, 7は中国特許法実施細則第20条第1項の規定に合致していない (審査基準第2部分第2章第3.2. 2節をご参照)。

2 クレーム6, 7, 12自体はマルチクレームですが、それらは、前のマルチクレームを引用しているので、中国特許法実施細則第23条第2項の規定に合致していない。出願人は該クレームの引用関係に対して補正すべき。

上記した理由で、本願は現在の書類のままで特許権が付与できない。出願人が、本通知書において指定した応答期限内に、本通知書にて提出した問題の一つずつ答弁すべき、必要な時に出願書類を補正すべき。それとともに、意見答弁書において補正した独立クレームは本通知書に引用する引例及び出願日前の従来の技術 (例えば国際調査報告にリストした引例) に対して新規性と進歩性を備える説得力を有する十分な理由を陳述すべき。そうでなければ、本願は特許権が付与できない。出願人は出願書類に対して補正すれば、下記の問題を注意すべき：1. 出願人が出願書類に対する補正は元の出願書類に記載の範囲を超えてはいけなく、中国特許法第33条の規定に合致すべき；2. 出願書類を中国特許法実施細則第18条第3項の規定に合致するように明細書の対応する部分 (例えば発明内容部分) も補正後の特許請求の範囲に基づき適当に補正すべき；3. 出願人は補正書類を提出するとき、第一、増加、削除、差し替えしたところにマーキングした、補正に関わる原文の写し、且つ補正の依拠を明記すべき；第二、対応する原文を差し替えるために改めて印刷した差し替え頁を提出すべき。出願人は前記二部分内容の一致性を確保すべき、且つ、意見答弁書に補正の具体的な理由と依拠を詳細に説明すべき。

審査官：高 麗 敏

コード：2576